東京税理士会　足立支部　支部長賞

「税金が支えてくれるもの」

足立区立　蒲原中学校

三年　桑原　朱希

私は物心つく前から、母と一緒によく近くの図書館に行っていた。私にとって図書館はとても身近な存在だ。幼い頃から本に触れる機会が多く、そのおかげで大好きな本にもたくさん出会えたと思っている。

そんな風に当たり前に利用していた図書館だが、私はふと、その「当たり前」はどこから来ているのだろうと疑問に思った。そういえば、図書館を使わずに本を読もうとお金がかかる。でも図書館では、それを誰でも、無料で読むことができるのだ。どんな人でも、そこに来れば知りたいことを知ることができるし、本を楽しむこともできる。これはすごいことだ。

でも、そんな図書館にある本を買うにも、やはりお金がいる。肝心のそのお金はどこから来ているのか。それは、私たちが納めている税金である。調べたところ、私が住んでいる足立区の図書館全体で図書の購入に使った税金の額は、約一億円だそうだ。こうした私たちの税金で図書館が成り立っていると思うと本当にありがたいと思うし、個人的には、税金の一部がこうして直接私たちが利用できる形で使われていることを嬉しく感じる。実際、図書館で気軽に本にたくさん触れたことで、知識はもちろん、今の読解力や学力が身につき、以前より広い視野で客観的に物事を見られるようになったと思うし、なにより本自体が大きな楽しみに

もなったと思うからだ。こうして振り返ると、私は図書館の存在には本当に助けられている。

調べてみると、昔の日本の図書館の閲覧室は有料だったようだ。でも、昭和二十五年に制定された図書館法で、公立図書館は無料で誰でも利用できるようになっている。これによって図書館では、学びたいと思った人は誰でも学べる、私たちの「知る権利」を支えることができているのではないだろうか。

税金で成り立っているものといえば、他にも生活しているうえで助けられているものがたくさんある。例えば、私の住む地域には公園がたくさんあり、幼い頃から自然に触れたり体を動かしたり、友達と集まるときの場所としても利用させてもらった。他にも、私が今行っている学校も税金で成り立っているし、税金で賄われている私たち子どもの医療費の助成制度も、本当にありがたいと思う。

普段は納める方に目が行きがちな税金だが、こうして考えてみると、図書館をはじめ、身の回りの施設や制度にも税金で成り立っているものがたくさんあることがわかった。学校や図書館がなかったら、私の人生は今とは大きく変わっていただろう。そう考えると、国民が納めている税金は、私たちが暮らしていくうえでとても大切なものだということが改めてよくわかった。